

# 各国・地域の動向について (2022年9月)

## 国際通貨基金 (IMF) : 世界経済見通しを下方修正

IMFは7月26日、2022年の世界経済の成長率を前年比+3.2%(前回4月予測比▲0.4ポイント)と、再び下方修正した。特に、インフレによる家計購買力の低下や金融引き締め等の影響を受ける米国、ロックダウン及び不動産危機の深刻化が懸念される中国の下方修正幅が大きい。

## サハリン2の新運営会社への参画

ロシアの資源開発事業「サハリン2」の新たな運営会社への商社2社の参画が、ロシア政府から承認された。サハリン2からのLNG輸入量は、日本のLNG輸入量全体の約8%。株主間協定について改めて協議する必要があり、ロシア側の出方を巡って予断を許さない状況が続く。

- 8月のユーロ圏の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+9.1%と過去最高の伸びを更新した。また、7月の英国のCPIも同+10.1%と約40年ぶりの高い伸びとなった。エネルギー価格や食料品などの価格高騰を背景にインフレがさらに加速する可能性が懸念されている。

- 一部の都市で移動制限が再び強まったことや内需の回復の遅れ等を背景に、7月の工業生産は前年同月比+3.8%、小売売上高は同+2.7%と6月に比べて伸びが鈍化した。
- 中国人民銀行は8月22日、景気回復が鈍いことをうけて今年3回目の利下げを実施した。

## IMFによる世界経済見通し (7月26日改訂)

( ) は4月予測値との差	2022	2023
世界	3.2 (▲0.4)	2.9 (▲0.7)
先進国	2.5 (▲0.8)	1.4 (▲1.0)
日本	1.7 (▲0.7)	1.7 (▲0.6)
米国	2.3 (▲1.4)	1.0 (▲1.3)
ユーロ圏	2.6 (▲0.2)	1.2 (▲1.1)
新興国	3.6 (▲0.2)	3.9 (▲0.5)
中国	3.3 (▲1.1)	4.6 (▲0.5)
インド	7.4 (▲0.8)	6.1 (▲0.8)

- 連邦準備理事会(FRB)のパウエル議長は、ジャクソンホール会議で、インフレが大幅に減速するまで利上げを続ける姿勢を鮮明にした。
- 外国為替市場の円ドルレートは、1ドル140円台まで進行し、1998年8月以来のドル高水準を付けた。

- 15日に発表された4~6月期の実質GDP成長率は、前期比年率+2.2%と3期連続でプラス成長となった。
- 政府は、水際対策の緩和として9月7日から入国者数の上限を1日当たり2万人から5万人に引き上げ、有効なワクチン接種証明書を保持している帰国者・入国者について出発国出国前の陰性証明を免除する。